

している業務の内容を詳しくご紹介いたします。
有坂 入社2年、現在、東京電力パワーグリッド・群馬総支社送電保守グループに所属して、送電線の保守業務に従事しています。

担当エリアである県庁所在地の群馬県前橋市と伊勢崎市で市街地を通過する送電線の電気事故、設備事故、公衆災害防止のため、日々巡視・点検に務めています。送電線下の建造物の問い合わせや他企業工事の連絡等も多く、電話対応も日々の業務です。最近は一人でも対応できるようになり、仕事に対して達成感を感じることも増えました。

私の担当業務は主に、巡視・点検の計画・実施管理、設備異常の改修実績管理、委託業務の施工会社への依頼と実績管理をしています。

現場での仕事は恐怖心を持たなくては行けない

——現在の業務に取り組むために、平常心がけていることは何ですか。また、仕事に対するモチベーションの源泉は何かありますか。

有坂 私は作業することに恐怖心を持たなければいけないと感じます。それはある上司に言われた一言が今でも心に残っているからです。「作業することに怖いという気持ちが無くなった時に災害は起きるものなのかもしれないね」。この言葉を聞いたときに、その時の私は高所作業にもある程度慣れてきていて、あまり怖いという感情を抱いていませんでした。私の中に油断が生まれている証でした。その言葉を聞いてから、軽易な作業でもその言葉を頭に置いて作業に従事するようにしています。私はこの仕事にとってもやりがいを感じています。

希望だった身体を動かす仕事、高所でも地上でも作業できることがとても楽しいです。墜落、感電、挟まれ、転倒など常に危険と隣り合わせの作業をする中でも楽しさがあるからこそ、この仕事に就けて良かったと思えます。私の仕事に対するモチベーションは楽し



現場、特に高所では恐怖心が大切



電線の保守作業

さを感じながら仕事をする事なのかなと思います。

電力現場、特に私の所属する送電では少しの誤りが重大災害となります。災害の情報を見る度、心が痛みます。仲間が被災することは悲しいです。高所に限らず現場では常に安全に心掛け、応援してくれる両親に心配を掛けぬよう、「自分の安全は自分で守る、仲間の安全も自分が守る」をモットーに現場業務に取り組んでいます。

特集

電気現場で活躍する女性技術社員

【送電部門】 常に安全をこころがけ、 場数を踏んで現場力を向上

東京電力パワーグリッド
群馬総支社 送電保守グループ
ありさか まりあ
有坂 麻里亜さんに聞く

高校時代から持っていた技術職への思い

——電力会社の職場で働くことを志したきっかけや動機は何でしたか。

有坂 商業高校で学んだスキルを生かし、就職すると決めていましたが、もともと運動部に所属し、身体を動かすことが好きでした。そのせいもあり、進路を決める高校3年には



現場での有坂麻里亜さん

身体資本の現場技術職への興味が膨らみ、夏休みに東京電力の総合研修センターに実技研修を見学に行きました。

多くの男性が作業をしている中に、一人の女性の姿を見つけました。その先輩は高所でも男性に引けを取らずに作業していました。現在の自分とは違う部門ですがその姿に惹かれ、私もこのようになりたいと思ったのがきっかけです。

同性の先輩の姿を見て技術職に就きたいという思いが更に増しました。技術職、しかも高所の仕事に就きたいと両親に相談しましたが最初は反対されました。親としては当然の答えだったと思います。その後も自分の考えを貫き、今この仕事に就いています。今では両親が一番の理解者です。

仕事に就き、実際に作業して自分の憧れ、やりたいことを選択に間違いが無かったと確信しました。今でもその先輩の姿は憧れで、先輩のようになりたいという思いで頑張っています。

日々の巡視・点検に加え問い合わせへの対応なども

——入社後に従事した主な現場と、現在担当